

## 令和5年度第1回千葉県立中央博物館リニューアル基本計画検討懇談会

### 議事概要

#### 【篠田主幹】

- ・千葉県立中央博物館リニューアル基本計画検討懇談会設置要領第4条第1項の規定により、座長を互選により選出します。

#### 【亀田委員】

- ・やはり林先生に座長をお願いするのが良いのではないかと。

#### 【篠田主幹】

- ・林委員に座長をお願いすることとしてよろしいでしょうか。それでは、林委員、座長席への御移動をお願いします。千葉県立中央博物館リニューアル基本計画検討懇談会設置要領第4条第2項の規定により座長は会議の議長を務めることとされているので、以降の進行は林座長をお願いします。

#### 【林座長】

- ・承知した。僭越ながら、座長を務めさせていただく。本日は忌憚りの無い意見を皆様にといただきたい。その前に座長不在時の代行を決定しておく必要がある。要領には、座長があらかじめ指名することとあるので、駒見委員に御願ひできないかと。

#### 【駒見委員】

- ・承知した。

#### 【林座長】

- ・今回の進め方だが、事務局が一括して説明した後、各委員から意見をいただく形で進めることとしたい。

#### 【立和名室長】

- ・（事務局から資料についての説明）

#### 【瀬能委員】

- ・資料を拝見すると、盛り込むべき点は概ね盛り込まれていると思う。ただし、博物館の

基本事業をそれぞれバランス良く機能させる必要があるという点では盛り込み過ぎているという感も受ける。

- ・項目3の(2)の博物館の現状と課題について意見を述べさせてもらいたい。博物館法で追加された博物館事業の項目について、博物館の機能は改正博物館法においても「資料の収集保管」「調査研究」「教育普及」の3つの柱が基本。このことは文化庁が示した同法の概要版でも明記されている。資料では「展示」と「教育普及」とが別立てにされているが、「展示」は教育の一手段であるため、両者を「教育」にまとめて1本の柱とすべきである。改正博物館法で追加された事業（連携や地域振興）は教育に、デジタル化は資料の収集保管（一般に公開する部分では教育）に落とし込むべきである。
- ・資料を収集保管し、その資料に基づいて調査研究を行い、その結果を教育普及に還元するのが博物館の基本である。したがって資料の収集保管、調査研究、教育普及の順に資料をまとめるべきである。

#### 【栗原委員】

- ・デジタル化のほかに地域連携や地域振興を大きく取り上げているが、これは以前から実施しているし、横断的に実施もしている。もともとの4つの項目と新たな3つの項目を無理に7つの項目とするよりは、別のものと考えて溶けこませるのが良いかと思う。
- ・国際交流について言及がない。

#### 【林座長】

- ・栗原委員の意見の通り、現状で国際交流についての言及がない。インバウンドの観点からも是非考慮してほしい。

#### 【駒見委員】

- ・キーワードに半島性とあるが、学術的なポイントとして半島性を活かすことはできるかと思うが、運営面での半島性の活かし方はどのように考えているか。

#### 【林座長】

- ・半島性の意味ということになるが、これはどうだろうか。

#### 【立和名室長】

- ・半島性はネガティブなイメージがあったが、それを払拭する目的もあってキーワードに設定しています。

### 【林座長】

- ・半島は地理的特徴が顕著であるので、その点を活かすのはよいと思う。海の分館など県内に広く施設を持っている強みに活かせるとよい。

### 【駒見委員】

- ・今後、中央博物館に機能を集約するのであれば、半島性というキーワードの活かし方を考えていく必要がある。半島の特色をどう出していくのかなどやや疑問は残る。

### 【阿児委員】

- ・県の方針にも関わることだが、博物館のみがデジタル化をしても意味は薄い。千葉県全体でのDX推進方針に沿って、博物館のDXを進めていくことで多くのメリットが生まれる。
- ・デジタル化を推進するに当たり、県庁の職員一人一人が中央博のデジタルコンテンツを活用できるレベルを目指さないと県民が活用するのは難しい。
- ・博物館のみではなく、地域の大学や学校の先生方などと連携していくことも大切。

### 【林座長】

- ・リニューアルの計画の中には「分野をつなげる」などの繋がりを意識していることは読み取れるが、人文科学や人文学でもかなりの意識の隔りがある。その点、難しいところ。

### 【阿児委員】

- ・資料化の手順として、調査研究を経て所掌が決定してからだと、部門を超えて協力して調査研究をしていくのはより困難になる。そうした状況にならないように基礎情報は非常に大切に、基礎情報がしっかりと管理されていればどの分野でも使用できるよう。今後はそのようにしていく必要がある。
- ・データを活用していけるように博物館業務を下支えし、効率化することもデジタル化の大きな役割。

### 【亀田委員】

- ・都道府県ごとに特色があるのでそこを活かしつつやっていく必要がある。琵琶湖博物館では開館から程なくしてリニューアルに向けた検討がなされてきたので、現場の学芸員

の意見を強く反映させることができた。

- ・現場の学芸員が今どういった課題をもって、どうやって取り組むのか。ニーズの把握や成果の集約方法などをよく考えておく必要がある。
- ・書き方として、記載されているものはやるが、記載されていないものはやらなくていいと思われぬように注意する。

#### 【稲庭委員】

- ・県民視点での検討が薄いのではと思う。全ての県民が博物館の資料にアクセスできるよう、また多様な人々、これまで博物館に縁のなかった人を取り込んでいくなどの工夫が必要。
- ・文化への「アクセシビリティ」や文化施設での「合理的配慮」など、ここ20年でこれまで博物館に来なかった人々への対応する法整備がなされてきた。そこに対応していくことについても言及した方がいいかと思う。

#### 【瀬能委員】

- ・千葉県には陸地だけでなく海もある。半島性のようなキャッチにこだわる必要はなく、「千葉県の自然と文化」のようなオーソドックスなもので十分ではないか。
- ・県立の博物館という位置づけと国内外から求められる博物館の機能を勘案し、資料収集の範囲や調査研究のレベルは千葉県内>全国>国際という順番（優先順位）にして、バランスよく事業に取り組む必要がある。
- ・アクセシビリティや多言語化によく言及されるが、例えばインバウンドであれば、外国人が千葉の地域の博物館に求めているものがどの程度かを勘案し、得られるものと労力とのバランスを考える必要がある。

#### 【栗原委員】

- ・収蔵庫は今後、寄贈とか寄託とか、もちろん収集でも増えていくことは間違いない。全国共通の課題ではあるが、収蔵庫問題は大事なことと認識していただきたい。

#### 【瀬能委員】

- ・収蔵庫の広さについてはこれまでの収集実績に基づいた予想を立てて考えてほしい。建物の耐用年数や資料の増加率を勘案する必要がある。
- ・資料の増加率や棚の占有率（収納率・充填率）の算出については、棚が全部埋められた状態を100%とするのではなく、資料の探しやすさ、取り出しやすさ、戻しやすさと

いったアクセシビリティを確保する必要がある。例えば瓶に収められた液浸標本の場合、アクセシビリティが確保された棚の占有率は30%程度である。それを越えると機能的には100%埋まった状態に等しくなる。

**【亀田委員】**

- ・自然系と人文系の融合について、例えば琵琶湖博物館であれば、基本的に研究部と事業部は兼任であって、日常的に他分野との交流は行われている。
- ・日常的に他分野や事務と接する機会があるとお互いの理解促進につながる。